

第1A(小) 分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 地域の教育力を活用するための教頭の役割
～地域との連携を通して～

司会者	佐伯市立蒲江小学校	島村千賀子
提言者	佐伯市立色宮小学校	金田ゆみ
助言者	佐伯市立直川中学校校長	前門清一郎
記録者	佐伯市立松浦小学校	藤原優子

1 協議の柱

- ・地域人材活用を充実したものにするために、教頭としてどのように関わっていけばよいか。

2 協議の実際

(1) 質疑応答

Q：来年度の小中一貫校に向けて中学校との関わりは？

A：合同の行事、保護者向けの教育講演会、スポーツ交流会、防災学習（避難訓練）等

Q：地域を知らない子どもの実態があるがどんなことを知ってほしいのか？

A：地域の産業（干物の加工やごまだしを作る工程やPRなど）体験をしながら地域の活動や人を知り地域に愛着を持つ子どもにしたい。

(2) グループ発表

- ・普段から地域とつながりをもち、よい関係を作っておく。校内に地域担当教員を作り担当者が変わっても把握できるようなシステムを構築しておく。担任をしながら地域の方と連絡を取り合うのは難しいので実際は教頭が窓口になることが多いが教頭1人がやってしまうのではなく担当者を育てていくのも教頭の大切な役割である。
- ・地域人材集めに苦勞する。ボランティア制度が確立している地域はスムーズである。
- ・教育課程の中に地域人材を活用した学習活動を組み込むことが有効であるが取捨選択は難しい。

3 指導助言

「地域とともにある学校」について教頭の指導力の発揮の例

- ①目標達成のためにネットワークを発揮。教頭自らが出向く。フットワークの軽さも重要。イベントに終わらず前後の系統性・継続性を心がける。
- ②担当者に地域人材資源を活用した教育活動の発想を持たせるよう指導。教頭がお膳立てをして担当者を前面に押し出す。外部と接することで職員も育つ。
- ③学校公開を意図的に仕組み、取り組みを宣伝し理解してもらおう。ありのままの姿を見てもらい協力の依頼をする。
- ④人材の開放は学校からも行う。地域の行事に児童生徒を参加させ、学校と地域が一緒に活動する。地域の人材や教育資源は記録を残し、引き継いでいくことが大切である。